

平成22年 6月 3日 (木)

リスファクス

第5610号

RIS FAX

発行人 茂木 静
編集長 玉田慎二

<http://www.risfax.co.jp/>

(株) 医薬経済社

103-0023

東京都中央区日本橋本町
4-3-1 サカエ日本橋ビル

TEL 03(5204)9070

FAX 03(5204)9073

● (C) 当社の許可なく複製することを固くお断りします ●

慶大・渡辺准教授 漢方など伝統医療、「大きく遅れている」

自民党は2日、厚生労働部会など3部会合同で漢方の現状をテーマに勉強会を開いた。講師の慶應義塾大学医学部漢方医学センターの渡辺賢治准教授は、漢方を含む伝統医療に関して「日本は大きく遅れている」と指摘。国が「新型インフルエンザを漢方で対応できる」という専門家の意見を取り上げなかった例を挙げ、「医療のなかで漢方をどうやって使うのか、生薬資源をどう確保するのかなどの戦略性が全くない」と批判した。今後の対策としては、大学などに「標準化担当部署」を設置し伝統医療の国内基盤を固め、中国に対抗するよう求めた。

また、渡辺氏は「中国は国際標準化機構（ISO）を通じて、漢方や生薬製剤を含めた中医学の国際標準化を積極的に進めている」と報告。そのうえで「中国の漢方や生薬製剤は粗悪。粗悪なものが国際標準になったらたまらない」との懸念を述べた。

ISOでは09年9月に、中国の提案を受け、「伝統中医薬技術委員会（TC-249）」を設立している。

伝統医療の国際標準化のメリットとしては「市場の創出・拡大」、「開発投資の効率化」、「ロイヤリティ収益力の向上」、「公認された評価方法による優位性の獲得」を挙げた。これらにより「収益力と国際競争力が向上する」としている。